

登場人物

● 主人公：李徴りていろう

出身地 「 」

若くして超難関の資格試験 「 」 (進士) に合格。

● 豆知識

進士は、出自・家庭環境が良く、幼いころから勉強してないと合格は難しい。試験は政治的な知識はもちろんのこと、漢詩・文章が作れないと合格できない。

役職 「 」 ……江南地方の軍事や警察などを司る官。

性格 「 」 ……片意地で他人と相いれない。

「 」 ……プライドが高い。

● 李徴の親友 「 」

時代

「 」の末年…唐の時代。

● 豆知識

七五五年、辺境防衛の任に当たる節度使が地方軍閥化し、「 」が起こった。
28歳で即位した玄宗皇帝が「 」との愛欲に溺れ、政治の腐敗が進んだ。
唐の時代に活躍した詩人：杜甫・李白・王維など。
(p. 427参照)

あらすじ

李徴は、「 」の生活に満足できず、「 」として名を遺すことを夢見て辞職するが、
文名はあがらず、再就職をする。プライドの高い李徴は、発狂し「 」に姿を変える。「 」
と化した李徴に再会したかつての親友「 」は、李徴自身から、「 」
が心中の「 」となり、やがて体も「 」となってしまういきさつを聞く。

● 中島敦について (一九〇九(明治四二年)～一九四二(昭和一七年)年)

東京四谷よやに生まれる。中島家は「 」の家系で、幼いころから漢学に親しみ、中国古典に精通する。両親の別居に伴い、母と離別後、父について奈良・浜松・ソウルなどを転々とする。大正一五年、「 」文科に入学。肋膜炎ろくまくえんにかかり一年間休学。この頃から生涯の持病となる「 」の発作に苦しむようになる。昭和五年、「 」大学「 」科に入学、同八年に卒業後、横浜高等女学校に就職。教職に就きながら執筆を続け、昭和九年、雑誌「中央公論」の懸賞に応募し、『虎狩とらつかひ』が選外佳作となる。昭和十一年には、中国各地を旅行。一六年には教職を退職し、南洋庁書記官として「 」に赴任するが、喘息の発作と風土病に苦しむ。昭和十七年、「 」に赴任中、深田久弥ふかたひさやの紹介で短編小説『古譚こたん』(『「』、『文字禍』)が発表され文壇に登場した。帰国後、ステイブソンふかたひさやの晩年を描いた『「』を発売し広く認められたが、喘息が悪化し三三歳の若さで亡くなった。没後、昭和十八年に『弟子』、『「』、『昭和二二年に『わが西遊記さいゆうき』が遺稿として発表された。

